

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 34 号 平成 20 年 9 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

小児肥満について

小児科部長 安藤 郁子



特定健診も始まり世はまさにメタボ撲滅に動き出しています。成人のメタボが取り沙汰されている今、その芽は小児期の肥満にあると言われ、我々小児科医も子供の肥満に真剣に向き合わなければならなくなりました。子供の肥満がこの30年で2-3倍に増加し学童の10人に一人は肥満と言われています。特に4-5歳の幼児期の肥満の25%、小学校低学年の肥満の40%、思春期に肥満がある子の70-80%は、まさにメタボ予備軍と言われています。原因はカロリー摂取過多な食事、夜型生活の低年齢化、朝食の欠食などの生活リズムの変化、ゲームなどの普及や高学歴社会の功罪である運動量の減少など、様々なことが言われていますが、これら小児期からの生活習慣を是正して行かなければ成人になってからの生活習慣の改善は難しいと思われます。子供の肥満の評価は身長伸びの速い小児期ではBMIより肥満度が良く使われます。肥満度が50%以上を高度肥満といい「肥満症」という疾患単位として捉えられ、糖尿病、高血圧、睡眠時無呼吸、脂肪肝など、まさにメタボを早期にきたします。また肥満度が50%未満でもメタボがすでにあれば「肥満症」と診断し、積極的な治療の対象となります。また運動能力の低下や外観からいじめの対象ともなり、心身ともに様々な弊害が出てきて、早期から生活習慣改善に介入し指導していかねばなりません。早期発見のポイントは身体計測を家庭や学校などで行っていますが、そのときに身長伸びに比べて体重が急激に増えて来たときに気付いてあげるべきと思われます。特に親が肥満傾向のある家庭の子は要注意です。治療は、よほど重度のメタボを来たしていない子供ならば、厳しいカロリー制限等は必要ありません。幸い子供は背が伸びるので、体重を増やさない程度 of 生活習慣の改善、つまり食生活の見直し、運動の推奨そして心理的な励ましなどでかなりの効果が期待できます。どんな疾患でも早期発見が大切です。ちょっと太っちょな子や最近急に体重の増えてきたお子さんがいらっしゃいましたら、ご紹介ください。

CVポートについて

外科 谷村 葉子



完全皮下埋め込み式中心静脈 Central Vein ポート(以下 CV ポート) は、血管内専用カテーテルに直径 2-3cm の円盤状の機器(ポート)を接続したものです。ポートの中心にはセプタムというシリコンゴムでできた膜様の部位があり、そこを専用の針で穿刺して薬液を注入する仕組みとなっています(図 1)。在宅でも管理でき、抜き刺しが容易で、入浴も可能となり、静脈ルートに必要な患者さんの QOL 向上といった利点があります。おもに悪性腫瘍と、経口摂取不良(不可能)なおかつ経腸管栄養が不可能で Total Parenteral Nutrition(以下 TPN) が長期にわたり必要な症例に適応があります。

当院では外科で外来手術により CV ポート留置をしています。鎖骨下静脈(まれに内頸静脈)よりカテーテルを挿入し、X 線透視装置を用いカテーテルの先端が上大静脈にあることを確認した後に胸壁皮下にポートを埋め込みます(図 1)。ここ数年当院でも CV ポート留置症例数が増えています(表 1)。理由としては、大腸癌をはじめとした悪性腫瘍に対して患者の QOL を重視した外来で可能な化学療法レジメンが普及したこと、在宅診療医のご協力のもとに癌末期の在宅緩和ケア症例が増加したことに加え、高齢者の経口摂取不良症例の増加があります。CV ポート留置により転院や在宅診療が可能となるため必要とされるケースです。一方 CV ポート留置には、感染・気胸・血胸といった高齢者にとって致命的ともなりうる合併症もあり、また TPN によっても栄養指標の改善が期待できない例もあり、全身状態の悪い例では適応を慎重に検討する必要があると思われます。薬液注入前後の処置ですが、薬液注入前には、血液の逆流を確認した後に滅菌生理食塩水にてフラッシュするのが推奨されますが、このフラッシュができない環境では血液逆流の確認はむしろカテーテルの閉塞をきたす恐れがあります。また薬液注入後は滅菌生理食塩水でのフラッシュが推奨されています。

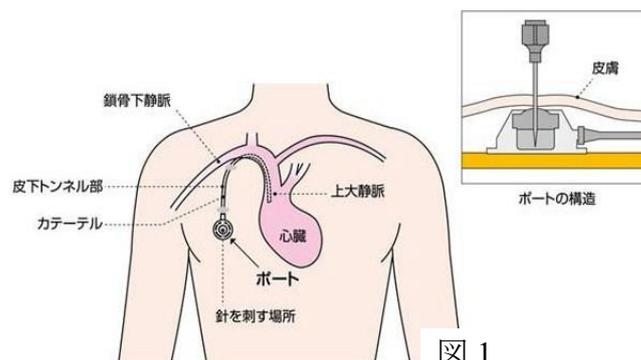


表 1 当院での CV ポート留置症例数

年	悪性腫瘍(例)	経口摂取不良(不可能)(例)
2005	2	1
2006	10	1
2007	12	3
2008(8月15日まで)	11	17